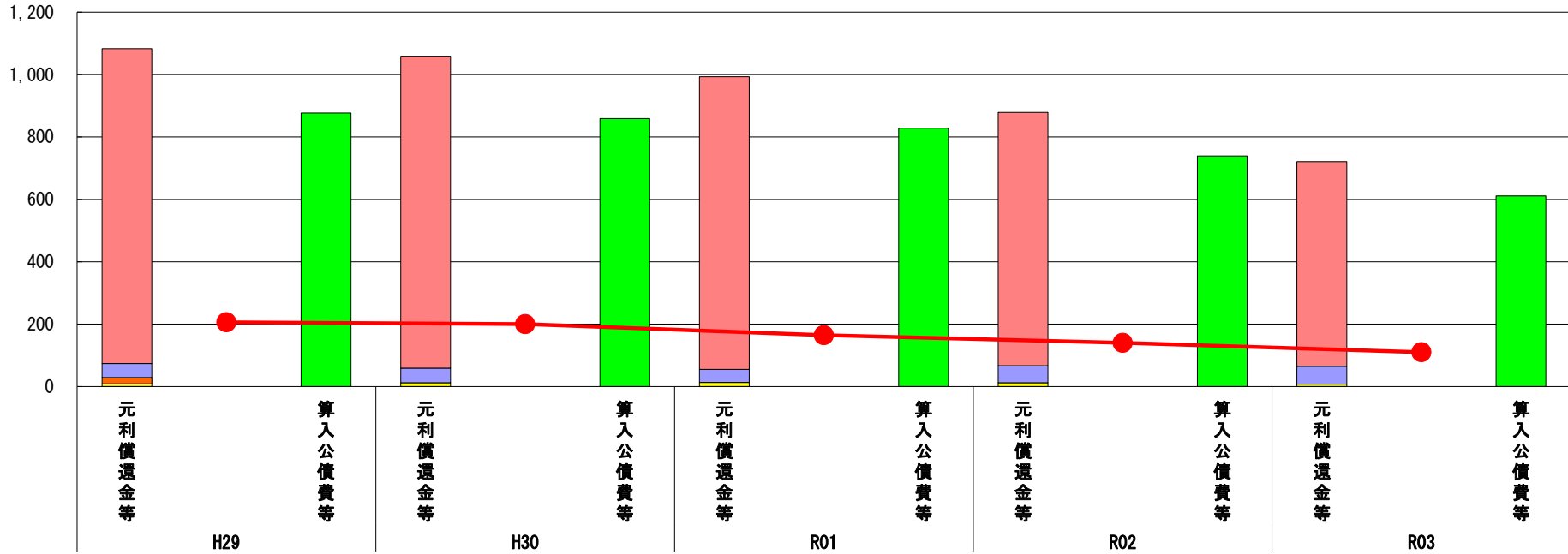


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,009	1,000	938	812	656
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		45	47	42	55	57
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		20	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		9	12	13	12	8
	一時借入金の利子		0	0	0	0	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		877	859	828	739	611
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		206	200	165	140	110

分析欄

近年の大型建設事業実施に係る地方債の元金償還のため、平成23年度以降に数値は上昇したが、平成22年度に借入れた地方債の償還が平成27年度に完済したこと等により数値は下降しており、また、平成29年度から地方債借入の償還年限を5年から10年に延伸したことにより、単年当たりの元利償還金が抑制されたため、令和3年度は、類似団体内平均値を下回っている。

しかし、普通交付税の発行額によって数値が大きく変動することから、今後も有利な地方債発行を優先させることとし、財政硬直化

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

分子の構造		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

特になし。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。